

三重大学におけるデータサイエンス教育について

奥原 俊[†] 若林 里枝子^{**}

[†]三重大学大学院工学研究科情報工学専攻/データサイエンス教育センター/名古屋大学高等研究院

^{**}三重大学 情報教育・研究機構

キーワード / データ教育センター、ICT、三重

1. 背景

文部科学省が中心となり、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力の向上を目的とした教育が進められている[1]。

三重大学はSociety5.0の実現に向けICT教育や数理・データサイエンス教育の発展に寄与し、また地域の関係機関や企業との教育研究拠点となり地域創生に貢献することを目的として数理・データサイエンス館（Center for Mathematical and Data Science: CeMDS）2020年4月に開館した。本稿ではCeMDSの三重大学における役割について述べる。

2. CeMDSの施設

CeMDSの施設は主に3つのエリアで構成されている。コネクトスペース：学生同士が共通の目的を達成するために連携し協力しあえるスペースである。新しい技術を学び、試作品を設計・テストし、研究のアイデアや戦略を議論するためにスペースを利用できるようにしている。また、このスペースにはサポートデスクがあり、パソコンに関するトラブルやデータサイエンスの課題を学生スタッフが相談にあたり、学生同士が協力して解決している。学生ではサポートできない相談内容については、教員や技術職員が対応している。メイカースペース：メイカースペースには、3Dプリンタ、VRゴーグル、3Dカメラ、ミラーレスカメラ、ドローン、ロボットプロトタイピングボード、レーザ加工機、Matterportなどの様々な機器が揃えられており、学生は研究テーマに基づいて必要な機材を自由に利用できる。使用方法や研究への活用方法については、大学院生や技術職員がサポートを提供しており、学生は機器の使い方や最新のテクノロジーに関する知識を身につけることができる。また、学部や学年の枠を超えた人との交流をすることで、異なる分野からの視点や知識が交換でき学際的な能力や協働力を育

むことができる。リーディングスペース：CeMDSではデータサイエンスに関する書籍を500冊以上取り揃えており、研究テーマに沿った書籍の貸し出しも行っているため、学生は自身の研究に必要な情報を吸収し、知識を深めることができる。さらに、リーディングスペースには読書用のテーブルなどが配置されており、学生は勉強や研究に集中することができる。

3. CeMDSの支援内容と貢献

CeMDSでは、研究サポートに取り組んでいる。例えば、気象画像データを収集保管し検索できるようなシステム構築や、運搬物の移動中にかかる負荷を図るための装置を3Dプリンタで印刷するなど、多くの研究プロジェクトや卒業論文、修士論文のサポートを行っている。また、CeMDSでは地域の小中高生を対象に楽しく学びながらICTの世界を体験できるような教育プログラムを提供し、大学の施設見学や特別講義を通して科学やデータサイエンスの面白さを伝えている。CeMDSは、学生が自身の可能性を最大限に引き出し、地域社会や世界に貢献できるリーダーとして成長することをサポートしている。データサイエンス教育や研究の発展に焦点を当てたCeMDSは学生にとって貴重な学びと交流の場となっている。

4. まとめ

本稿では、地方である三重に拠点を置く三重大学のCeMDSのその施設に関する説明、および支援内容について述べた。

参考文献

- [1] 文部科学省, 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）, https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/00002.html (参照日：2023年6月1日)